

どこから見ても 自衛隊イラク派兵は おかしい

自衛隊はイラクに旅立ちました。南部サマワに入ります。失業率70%と言われるサマワは経済大国日本が雇用先を作ってくれると期待しています。日本が建てた病院があつて医師や薬や医療器具が来るのを待っています。自衛隊はそんな現地の期待に応えられるのでしょうか。

すでに5000人を越えるアメリカ兵が亡くなっています。アメリカだけでなくイギリス、イタリア、ブルガリア、ポーランド、タイ、デンマークの兵隊も犠牲になりました。

した。手足を無くしたアメリカ兵重傷者は2200人を越えています。精神に失調をきたして帰国したアメリカ兵は1000人をくだらないと言われます。日本人外交官2人を含む文民、韓国人電気技師など民間人の犠牲者を加えればこの戦争での外国人死者は6000人を越えます。イラク人の戦闘員死者は約49000〜54000人、民間人犠牲者は10月末で7768〜9578人と推計されています。

日本とイラク 良好な関係

日本はこれまで中東地域で戦争をしたことがないので友好国とみられてきました。自衛隊は復興支援・人道支援に行くといひます。しかし、現地の人々に失望を与えたり反感を買ったりしたら人道支援にはなりません。自衛隊がアメリカの占領支援とみなされれば敵として攻撃の対象になります。鉄砲を持って歩き回るようならアメリカ占領軍の手先としか見られないでしょう。友好国に友好の手を差し伸べたら敵国になってしまったというのでは国益を損なう最悪の道です。

するのが一番効果的な方法だと思われまふ。日本政府はアメリカにいい顔をするために自衛隊出動しか考えないのでしょうか。あるいはかつての鈴木宗雄氏がやったようにNGOを敵視するのでしょうか。

その点では、民間のNGOはイラクでも援助活動に成果をあげてきました。その人々や組織を活用



危険なアメリカと危なっかしい日本

パレスチナ、アフガニスタン、イラクと戦火は止まるところを知りません。これらの国で主役として戦っているのはイスラエルとアメリカです。11月に行われたEU（欧州連合）15カ国の世論調査によれば世界平和にとって脅威となる国はイスラエルが1位で59%、アメリカが53%で北朝鮮・イランと同率の2位です。これがヨーロッパ市民の世界認識です。日本の政府はそんな危険なアメリカに肩

入れしようとしているのです。「ブレアさん、あなたはブッシュさんのプードルと呼ばれているそうですね。わたしはブッシュさんに、ちぎれるほどにしっぽを振ってついていくんですよ」と小泉首相が言ったそうですが、今アメリカについて行くことほど危険な道はありません。

1941年日本がアメリカと戦争を始めたときドイツはソ連に深く攻め込んでいくすぐにも勝ちそ

うでした。勝ち馬ドイツのあとについて漁夫の利を得ようというのが日本の戦略でした。しかしドイツはモスクワ総攻撃を開始して2日後に失敗、ドイツの破竹の進撃が止まりここを転換点にして敗北への道に切り替わったのですが、よりによってその転換点となった12月8日に日本はパールハーバーを攻撃したのです。日本の政治・外交の視野の狭さを露呈したものでした。アメリカはベトナム戦争で最後まで勝つて勝つてると言いながら負けました。ソマリヤ内戦のときは戦線離脱して引き上げ、後は野となれ山となれの態度をとりました。そのアメリカが今イラクに固執するのは世界第2位の石油埋蔵量という利権があるか

本当の国際貢献とは

小泉首相は繰り返し国際貢献を叫びます。国際貢献を言うならスウェーデンやスイスのように、国連協力と国際緊張の緩和、食糧や水の供給や医療援助、学校建設や教育支援のために働くべきです。自衛隊の出動は少なくとも国連がPKO（平和維持活動）を組織するまで待つべきでした。アメリカのイラク占領への協力は国際貢献と似て非なるものです。

日本でもNGOや民間の人権団体がアフガニスタンやイラクで国際貢献の活動をしています。イラクで全く危険を感じないで物資援助活動をしていたピース・ウィンズ・ジャパンや小学校修復活動をしてきたJENなどのNGO団体が治安の悪化のために撤退に追い込まれました。ペシャワール会のようにアフガニスタンで10年以上も病院を開いたり井戸を掘ったりして現地の人々と良き隣人の関係にあった団体が、水道作業をしていてアメリカのヘリコプターに攻撃されました。実は、危険なのはアメリカなのです。

アメリカは軍事的勝利だけにこだわっています。日本を含めた子分共を脅しやつと世界5分の1の国を集めて孤立をごまかしたのは外交的敗北です。

ありもしない大量破壊兵器が脅威だと声高に叫び続け、イラクはニジェールからウランを買って

らです。チェイニー副大統領の閣連会社ハリバートンがもうその利権を手に入れたという情報もあります。そういうアメリカと知って小泉首相はアメリカのしり馬に乗るのでしょうか。



るとウソをついたり、米軍が救出したとして「英雄」に祭り上げたジェシカ・リンチさんが真実を公表してヤラセが発覚したり、これはアメリカ政府の道徳的敗北を表しています。

たしかにアメリカは軍事的超大国です。それがブッシュ時代の政治的・道徳的退廃を生んでいます。それを自覚できないアメリカ政府に批判も反省もなく追従する小泉首相の能天気な墮落ぶりが同じ国民として恥ずかしく思います。上田では毎週自衛隊イラク派兵反対の行動が行われています。私達も声をあげていきましょう。

つきぬき草



創刊号
発行 日本共産党菅平支部
発行日 2004年1月28日
責任者 倉橋重松
電話 74-3323 FAX 74-3201